

二山高木山覚正寺を尋ねて

こうやって、いくつかの寺を見せてもらおうと由緒書きにずいぶんその市の文化財になるような物が有るがだけども聞いて見ると何ないがです。現物が例えばこう西寺なんかとしながの書簡もろた、便りもろたいって書いてあるがですけれど一つもないがです。ああいうが何処へいったものやら現物が無い

な～ん第一古文書が大事だって意識するのが今とまた違って無かったんじゃないかしら私家なんかでも見てると建て替えたりどこか雨が漏ってきて直したりするとゴミだからね、昔あったランプ、古文書なんかは知らないけど手で持って歩く朱塗りのランプをみんなあそこで焼いて惜しかったよなんて今になったらそんな話を聞きます。

まだ家の襖を加賀藩の古文書が襖をはぐればあるがじゃないかと思います。石黒高樹と（基）といっしょに琵琶湖の測量に誘われた古文書が有りましたから

やっぱあれいい物だったでしょうお父さんにくれって言ったら前多さんにだけやるなって加賀藩から来ている年貢米の市に寄託しましたから

あんた一回そ解体して新しく表具しなおいて中きれいにほぐさいい表具に古文書がある。かえって表よりも値打ちもんかかもしれませんかよ
昔の表具て言うのはその家にあるいろんな文書とかだいがく、木版帆をひらいてそれは、家でやったもんやちゃねーだから案外なかにもいいもん有るかもしれませんかね
この間、城端別院で県の古文書会その襖がこおやっちはぐれて来ているみんな表のえ茶關心ないはぐれてきているものこおやっけて見てもうちよっこはぐれんかの・・・・・・
あんたうちにあるとおもうわ

宮袋に現在なんないもんだいたい門徒 寺塚原なし、沖塚原なし朴木なし

ひでんが有りましてそこで墨塗って上からポンポンとたたいたもんだこれ技術いるわいね
かんざん寺とかあんにかいひでんのなかにあるがを何百あるがかね寺に
奥村さん家に有ったの・・・・元塚原村に有った沿革史そんなもんちゃこれと塚原むら資料2つしかないがいちゃ・・明治41年に書かれた塚原尋常小学校ちゅうがであるがいちゃこれはおそらく射水郡史の時に出したこれは役場が書くべきものを学校で書く人おらんかと学校へ頼んだがでないかと思うがいけど（ちよっこ違つとる面もあるがでないかと思うんです。）

訥 私も金沢へだいぶ通っていますけどあんまり無いんですよ返って石黒先生の高樹にあ

るがでないかな・・・塚原のもとを知りたかったらとくに沖塚原、寺塚原は折橋文書ぐらいしか無いね。その先は、石黒高樹でもこんな近くなんだけど川口、宮袋測量は川崩れごととにやっておるがいちゃねだけど沖塚原、寺塚原はやった記録が無いただ屋帳が有るがいちゃここからここへ何間、ここからここへ何丁と言うのは有るけれど、ここからここがどこかなんわからんがい屋帳が有ます出来上がった地図なんないが三歩市とは租税、めんそ3分の1のことを言う33%ことを言うずいぶん小杉のほう行っても砺波のほう行ってもずいぶん五歩市、八歩市、二歩市、なんか朴木で朴木の面が五割、沖塚原が四割、伊勢領とは伊勢神宮の領、寺塚原と沖塚原は一村立やったがいちゃね。一つの集落だったがねそれが慶長年間に別れたちゅことはあの木舟城が地震で崩れた時、そんな時に莊川の上流がせき止められたないかと思うがいけどがけになって洪水によってせき止められたのがドンと開いたために大洪水になるがいちゃそしたらその莊川の流れが変わって三歩市の真ん中をつき通ったんじゃないかそして二つに別れた 嶽 小矢部川の方によって言ったんじゃないくてこっちのほうにも流れていた 嶽 朴木の方を流れていたのがなんちゅう川やったけ 神楽川 神楽川と一緒にいたりしたんですか？ 嶽 神楽川と一緒にのときが有ろうか神楽川は赤井の方から荒畑の方へ来ていたのと沖塚原の方から大門に上がっていたのも有ったがです。いろいろ川は変わっていると思います。もとの氾濫の和田川水景主な川筋になっただか。小牧の方から千保川に主流が行っていたことも有ります。宮袋の方に川が上牧野のほうから射水川（結局庄川の旧態）小矢部と庄川の合流点から射水川万葉集で呼ばれた頃は、中洲をぐるっと回れた歌に歌ってあります。嶽 国府が置かれたと来はかなりこうゆうものがはっきりいま残る物がないがですかねー それは、木管か、土器（その頃に使われた須恵器）が下から出ないことには、出てこないと思います。奈良時代には、戦争にいくと言うことでそして奈良以降は安定してきて国府が置かれて言った。あの一高木の遺跡掘ったにきあれも結論でんじまいで終わってしもうたけどもどこの寺領やったかと言うことでね。

いろいろと大学の先生はここには古代道北陸道が走っていたんじゃないかろうかと言うことです。亘理から白城へ大島と沖塚原の境界線です。大先生が考古学とか調べながら書いておられる。 小さい時の道のように何かの痕跡がないもんですかね…

このヒイラギがみんな知っとるお前っちゃ何言うと言うて・・・ほんとやね

庄川の流れによって集落形態がね中曾根、宮袋、三女子經由ね、庄川の向かいの川口の所から珠洲焼きが出ますから骨甕が

珠洲焼きはどこに出ています？ 珠洲焼きは鏡宮、朴木、松ノ木、沖塚原、宮袋に出ています。川の関係の所にだいたい出ています。嶽 交易の関係です。嶽 私のとこの孫がこれだけの破片土器を捨てきたこれ何けとお父さんにこれは珠洲焼きの土器や不思議な顔しとった。須恵器とよくにてて石川県の珠洲で焼かれたもの、交易の関係で川の水域に中世に交易がさかんで軍事できに増山城とか放生津城とかの水運の関係で重要な地域でなかったかなと城のある所ちゃそこの近辺で働く人々は米を作ったり年貢米など運ばんなんけ

で推測するだけながですけれど文献はその頃は出ていませんから焼き払われたり文献が残っておれば江戸時代のものでしょう。実物がないことには土器でもここにあるからこうだと説明できるけど最後はだろろうでは駄目。

放生津は、放生津小学校に自然石で放生津跡て書いてあります。発掘調査はされました（試掘見たいなもんかね）放生津はとりでと解釈したほうがいいね。天主閣とか有ったもんじゃない

嶋 私は別の考えするがいけど二上城と火の宮城と小杉のね放生津城との三角点が